

『JVA 2017 年年間統計調査結果』について

当協会は、3月12日(月)午後1時30分から、協会会議室において『JVA 2017 年年間統計調査結果』についての記者発表会を開催しました。

以下に記者発表された報告の中から抜粋して2017年の統計調査結果についてご報告いたします。

なお、本調査の結果は『日本映像ソフト協会統計調査報告書 Vol.85』として冊子にまとめられ、一般の方にも有料にて頒布しております。

本件のお問い合わせにつきましては、広報課倉橋、上田(03-3542-4433)まで、または、協会ホームページの「お問い合わせ」にアクセスしてください。

以上

2017年(1月～12月)の実績について

1. 2017年のビデオソフトの総売上は1876億7000万円で前年比91.7%となった。上半期が916億8500万円で前年同期比89.4%と2016年の上半期を大きく下回り、下半期も959億8500万円で前年同期比94.0%と伸び悩んだ。

ビデオソフトの総売上金額をメディア別に見てみると、DVDビデオが994億8400万円で前年比85.5%と大きく前年を割り込んだが、ブルーレイ(Ultra HDブルーレイを含む。以下同様)は881億8600万円で前年比99.8%とほぼ前年並みだった。DVDビデオの売上が減少していることにより、ブルーレイの構成比は47.0%と過半に近づいてきている。<添付資料 表1>

2. ビデオソフト全体の売上金額を流通チャネル別の構成で見ると、販売用、特殊ルート、レンタル店用、業務用の割合は、75.9対0.8対22.7対0.6となり、レンタル店用の割合が減少し、販売用の割合が大きくなる傾向が続いている。<添付資料 表4>

3. 販売用全体(DVDビデオとブルーレイの合計)の売上金額は1423億7200万円で、前年比93.0%となった。そのうちブルーレイが832億1500万円で前年比99.5%と微減にとどまったが、DVDビデオが591億5700万円で前年比85.1%と前年を大きく割り込んだ。<添付資料 表5>

販売用全体の売上金額をジャンル別に見てみると、2015年から構成比1位を占めていた『音楽(邦楽)』が前年比76.9%と前年を大きく下回ったことが全体の前年割れに大きく影響した。構成比3位の『洋画(TVドラマを除く)』も前年比92.7%と伸び悩んだが、大ヒットとなった『君の名は。』のリリースがあった『日本のアニメーション(一般向け)』が同102.6%と伸長し、構成比1位(30.2%)に返り咲いたほか、構成比4位の『邦画』も同120.7%、構成比5位の『日本のTVドラマ』が同122.3%、構成比6位の『芸能・趣味・教養』が同141.3%と大きく伸長するジャンルもあった。

各ジャンルの売上金額におけるブルーレイの割合は、『日本のアニメーション(一般向け)』が77.6%、『洋画(TVドラマを除く)』が75.0%、『邦画(TVドラマを除く)』が47.5%、『音楽(邦楽)』が47.7%、『日本のTVドラマ』も48.6%となり、ほぼすべてのジャンルでブルーレイの比率が高まってきている。また、売上金額は大きくはないが『海外アニメーション(一般向け)』は94.7%がブルーレイによる売上となっている。

<添付資料 表7>

4. ブルーレイの販売用の売上金額をジャンル別に見てみると、『日本のアニメーション(一般向け)』が前年比は103.9%と伸長し、構成比1位(40.0%)を占めた。また3位(14.8%)の『洋画(TVドラマを除く)』も同102.1%、第4位(5.2%)の『邦画(TVドラマを除く)』も前年比120.7%、第5位(4.6%)の『日本のTVドラマ』も同139.8%と、主要ジャンルはおおむね好調だったが、構成比2位(23.6%)の『音楽(邦楽)』が前年比84.3%と大きくダウンし、全体では微減(99.5%)となった。<添付資料 表7>

5. DVDビデオの販売用の売上金額をジャンル別に見てみると、構成比1位(36.4%)の『音楽(邦楽)』が前年比71.1%と前年から大きくダウン、第2位(16.3%)の『日本のアニメーション(一般向け)』も前年比98.3%と伸び悩んだ。一方で、第3位(8.0%)の『邦画(TVドラマを除く)』は同120.7%、第4位(7.8%)の『芸能・趣味・教養』は同120.7%と大きく伸長したが、全体を押し上げるには至らなかった。

<添付資料 表7>

6. レンタル店用全体(DVDビデオとブルーレイの合計)の売上金額は426億9100万円で、前年比86.9%となった。前年は、レベニューシェアリングの影響で売上金額が前年割れとなるなか、売上数量が前年を大きく上回る傾向を見せたが、当年は売上数量の前年比も87.1%となり、金額と同じ傾向となった。売上金額全体に占めるDVDビデオの割合は91.4%で、390億2900万円、前年比86.5%となった。

DVDビデオのレンタル店用のジャンル別売上金額では、『アジアのTVドラマ』が前年比112.9%と売上を伸ばし構成比1位(18.3%)となった。続く第2位の『洋画(TVドラマを除く)』(17.1%)は同74.6%、『日本のアニメーション(一般向け)』(16.8%)が

同 79.5%、『邦画(TV ドラマを除く)』(15.7%) が同 85.1%、『海外の TV ドラマ』(12.4%) が同 85.7%と、主だったジャンルは前年を下回った。

ブルーレイのレンタル店用の売上金額は 36 億 6200 万円で前年比 92.4%だった。ジャンル別売上金額では、全体の 56.5%を占める『洋画 (TV ドラマを除く)』が前年比 80.5%と前年を大きく下回ったが、続く『邦画(TV ドラマを除く)』(構成比 25.4%)は同 112.5%、『日本のアニメーション (一般向け)』(同 6.7%) も同 199.2%と前年を大きく上回りシェアを伸ばした。

売上金額におけるブルーレイの割合が最も高いのは『洋画 (TV ドラマを除く)』で、売上金額の 23.7%を占めた。〈添付資料 表 8〉

7. 売上金額を売上数量で割って単純に求めた 1 枚当たりの単価を見てみると、DVD ビデオの販売用の平均単価が 3,400 円で前年比 103.5%となった。比較的単価の高い『音楽 (邦楽)』が主流を占めていることに加え、好調だった『邦画 (TV ドラマを除く)』の単価が 20%近く上昇したことが影響している。一方、数年来下落傾向が続いていた DVD ビデオの『レンタル店用』の平均単価が 1,529 円で前年比 99.3%と前年並みにとどまった。下落傾向を牽引していた『アジアの TV ドラマ』が前年比 130.4%と上昇に転じ、そのほかのジャンルにおいても下落幅がこれまでよりも小さくなっている。

ブルーレイの販売用は 5,125 円で同 99.8%と前年並みだった。〈添付資料 表 6〉

以 上

追記

〈本統計調査報告についての注意点〉

- 本報告は、JVA 会員社が発売、販売する自社作品および他社作品の出荷段階の売上をまとめた統計である。
- 返品分は金額、数量とも調査時点において差し引いている。
- DVD とブルーレイのコンボ作品はブルーレイにカウントしている。
- 「日本の子供向け(アニメーション)」などにある“子供向け”とは、目安として 9 歳以下の子供を対象とした作品のこと。
- ブルーレイの売上には Ultra HD ブルーレイの売上を含む。
- 「特殊ルート」とは、雑誌やコミック、食玩などとして他商品に付帯されるものの売上のこと。